



「世界の子どもとピースサークル」 の活動報告

報告者 大阪府立豊島高等学校 杉本美範先生

ポイント

2007年度に立ち上がった「世界の子どもとピースサークル」と命名されたクラブの活動報告をします。「ボランティア」を主としたクラブを立ち上げることは正直難しいというのが、今の高校の現状です。「恥ずかしい」「ええかっこしていると思われたくない」「ダサイ」など、理由は色々あります。しかし、豊島高校では1年生2人から地道に活動をすることで、2007年度は6名の部員を獲得しました。自主活動をどう作るか、ボランティアスピリットをどう広めるのか、皆さんの参考にしてもらえたらと思います。

【1】「特攻花」を育てる（平和活動）

写真家の仲田千穂さんがライフワークとして撮り続けている喜界島（鹿児島県）の「オオテンニンギク」、通称「特攻花」。その種子を蒔いて、水をやり、サークルとして、戦争の真実を語る「語り部」になろうと、平和学習に取り組みました。

【2】西丘保育所と月1回の交流（子どもとの触れあい）

学校に近い西丘保育所と月1回の交流をおこなっています。インターシップではなく、月1回を継続して交流をおこない、壁新聞などでその様子を伝えています。毎回部員たちに、課題をもって参加することを課し、必ず毎回反省会をおこなっています。

【3】「ピースハンズ」の活動に参加（平和活動、世界の子ども支援）

写真家の木下むつみさんがおこなっている「イラクの子どもたち」を励ます活動に参加しました。「イラクの子どもたち」を励ますメッセージや絵を、自分の手のひらに描き、木下さんがそれを写真に撮り、大きな1枚の紙にレイアウトして、「イラクの子どもたち」へ送っています。

【4】「ユニセフ募金」と「カンボジアの子どもたちの給食支援募金」をおこなう（世界の子ども支援）

募金の趣旨を全校集会で訴え、ピラを各クラスで配布し、4日間下足室前で募金活動をおこないました。各クラスの終礼で時間をもらって募金への協力を訴え、ピラを配布しました。大きな壁新聞でも趣旨を掲げ、4日間で8万円以上を集めることができ、その成果は、領収書を展示して結果を全校に示しました。

【5】他校との交流

大阪の高校で「人権」活動をおこなう高校生が集う「はんまだん（みんなの広場）」や「ヒューマンライツフォーラム」に参加したり、豊中市から委託された冊子「Tsunago」(No1~No3)の編集のため、豊中市の小中高の学生ボランティアたちにインタビューを取りにいったりしました。ボランティア活動をしている同じ年代の生徒たちと交流することで、これからのサークル活動のヒントをつかむことが出来ました。

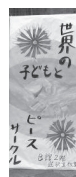
以上のように2007年度は「世界の子どもとピースサークル」と生徒たちが命名した通り、「平和活動」「世界の子どもたち支援」を中心に活動をおこないました。2008年度も継続してこれらの活動を続けるとともに、「障害を持つ仲間との交流」や、「ユニセフ募金」を「文化祭」でおこなうこと、桃山大学の海外ボランティアサークルと連携しての大きなイベント、などを計画しています。活動のヒントは顧問である私が提示しますが、その取り組みをおこなうかどうか、どんな目的でおこなうのか、どのようにおこなうのか、などは全て部員達の話し合いで決定しています。地道に、しかし確実に活動を広げることで、「人権文化」を豊島高校に広げていきます。



ホームレスバンド
(OHBB) と交流



ユニセフ募金



文化祭立て看板



島高校に咲く特攻花